

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200110		
法人名	株式会社 長寿会		
事業所名	グループホーム 長寿の郷 広淵 ユニット名 すみれ		
所在地	宮城県石巻市広淵字砂三7番1号		
自己評価作成日	平成29年 8月18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のある共同生活の場で、一人一人が様々なレクリエーションを通して、楽しく生き生きと暮らせる暖かく安らぎのある生活を送れるよう目指しています。『自分らしい』生活というもののが何なのかをよく考え、自立生活の持続を支援しています。窓から見える庭では四季折々の花が咲いており、広い園庭では散歩を楽しんだり、家庭菜園では野菜の収穫を楽しんだりと目でも手で直接触っても四季を感じられ、身体の向上へと役立てます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸自動車道石巻港インターから北へ5kmほどの国道108号線近くに「グループホーム長寿の郷広淵」がある。ホームは田園に囲まれ、周辺には住宅が点在する。運営推進会議は、地域包括支援センター職員が毎回参加し、2ヵ月毎に行っている。「ホーム行事は、地域との繋がりも視点に入れて」「昔の人はいろいろな知恵がある。それを引き出すと生き生きと教えてくれる」等の会議での意見を運営に活かしている。避難訓練は、地域住民の参加がある。入居者は、家庭菜園や洗濯物畳み、料理の準備・後片付け等、できることを楽しんで、笑顔溢れる日常生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 長寿の郷 広渕)「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、事業所理念を作成し各ユニット内に掲示・共有をしている。毎日、朝礼時に唱和をしている。	「一人ひとりの思いを大切に笑顔溢れる楽しい暮らしを支援します」を介護理念に掲げ、毎朝唱和している。職員は、入居者との会話や表情、サインから本人の思いや希望の把握に努め、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や保育園等の行事に積極的に参加し、ボランティアの方に来訪して頂きダンスを見せて頂いたりしている。町内会にも加入し、地域の方々との日常的な交流もはかっている。	地域の秋祭りではホーム前を練り歩く子ども神輿を励ましたり、保育園の運動会に出掛けている。ホームの夏祭りやハロウィン行事では、チラシを配布したり、案内をコンビニに掲示して貰い、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が入居者との交流の機会があれば積極的に参加するようにしている。また、行事等を通じて理解や支援をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や実施状況、日常生活等を報告し、会議内にて得られた意見や要望は支援内容や運営内容に取り入れ改善している。毎月「長寿のたより」という施設新聞を入居者家族へ送付し、運営推進会議は2ヶ月に一度、年に6回開催している。	地域包括職員は毎回出席し、年6回開催している。行事、野菜作り、献立等を話し合った。「行事は地域との繋がりも視点に入れて」「ホームの新聞を地域にも回覧したら」や野菜作り等の助言を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは積極的に情報交換や、報告・連絡・相談を行い常に協力できる関係の構築に努めている。	運営推進会議でホームの実情を報告したり、地域包括のオレンジカフェに参加し、情報交換している。行政からの要請で受け入れた入居者の成年後見人が決まるまで、連携して対応する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアを実施しているが、身体拘束マニュアルを基に必要性が生じた場合は家族と相談し、同意を得た上で最低限の拘束に留める努力をしている。身体拘束に関する内部研修も実施している。	日中は玄関の施錠をせず、自由に出入りできる。入居者が家族のもとに帰ろうとして外にでるときは、職員が見守る。腰痛で座り込んでしまったときは本人の気持ちが落ち着くまで寄り添っている。内部研修では、職員が持ち回りで講師となり、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知・徹底の基、内部研修にて資料を配布し虐待についての正しい知識と理解を学ぶ機会を持つようにしている。また、意識統一を図る事で防止するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に、内部研修等で学ぶ機会を持ち、個々に合わせた支援体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、契約書および重要事項説明書の内容について面談にて説明し、家族の疑問点等についても尋ね、理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から寄せられた意見や要望、苦情は真摯に受け止め、運営推進会議等で報告し、入居者への支援の向上に努めている。	利用料を現金払いとして、家族来訪の機会に意見を聞いている。体重の変化や暮らしの様子が分かる写真提供等の家族要望に対応した。行政制度の申請の依頼があり、手続方法を説明し、行政への橋渡しをした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、管理者と計画作成にて話し合い、シフトの組み合わせや運営に関する意見や提案を聞き、反映に努めている。	毎月1回、全体会議が行われ、職員同士がシフトや休暇希望等を自由に話し合っている。薬を入居者毎の箱に分けて管理する提案を反映し、誤配・誤飲を減らし、一人ひとりの服薬状況が分かるように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個人個人の努力や実績、勤務状況等を把握し、出来るだけ現場職員が働きやすいように職場環境の整備に努めている。また、業務に有益な資格はシフトを調整したり、補助したりと資格取得への意欲の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施し、講師を職員が務め出来るだけ職員個人個人が自分で考え互いに学び合える内容になるよう努めている。また、シフト等を調整し、外部研修を受ける機会の確保作りにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、地域包括支援センター、相互協会などが主催する会議等には積極的に出席しており、情報の共有や相互交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談、入居前の面談において本人や家族の不安な事や要望等を傾聴し、本人が安心し、安全な支援を行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に幾度も面談を行い、本人、家族の困っていることや不安の解消に努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設への来訪または電話にて相談があった際は、現状を確認後にサービスや申請等情報の提供を基に調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に尊敬出来る気持ちを持ち、入居者から様々な事を教わりながら一緒に生活し、第2の家庭として安らぎのある笑顔の多い生活、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「長寿のたより」という新聞を毎月請求書と共に送付し、また運営推進会議開催時にも行ったイベントについて個々の状況報告や共有を行っている。また、家族の要望等は随時承っており、要望を取り入れたより良いケア・サービスを行えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族が来訪された際は居室でゆっくりと過ごして頂けるよう心がけている。また、積極的に散歩やドライブ等外出を行い、馴染みのある場所を訪れ関係を途切れさせない様努めている。	週末には、家族や知人の来訪が多い。震災時の避難所だった色麻町農業伝習館に、シャクヤク祭りに合わせて出掛ける事が恒例行事となった。家族と一緒に墓参りや温泉に出掛ける入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の趣味や性格、嗜好等を考慮し、職員も交えて入居者同士が関わり合い支え合う支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時の状況にもよるが、退去後の様子の確認、相談等があれば随時相談に応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話やコミュニケーション等で本人の暮らしに関する希望や意向を把握するよう努めている。また、家族に情報収集を図り、入居者本人本位のケアにも努めている。	会話を多くし、表情やサインから本人の思いや希望の把握に努めている。家族の「食事の準備や洗濯物たたみ等できることをさせて欲しい」の要望や課題への対応は、ユニット会議等で入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他サービス事業者や本人、家族より頂いた情報を基にして、可能な限り馴染みのある暮らし方や環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り、状態観察、現状の把握を行い、生活記録票や介護支援記録票、連絡ノートを活用し職員が周知、共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の身体状況が変わる度に職員全員でカンファレンスやアセスメントを行い介護計画の変更を行っている。また、ご家族や入居者の要望を反映して介護計画を作成している。	本人、家族の要望や医師の助言などを基に職員全員で話し合い、3ヵ月毎に計画を見直している。編み物の得意な方には、父の日のプレゼントにマフラーを編んで貰うことを計画し、本人の持てる力を引き出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やスタッフ間での情報や気づきを職員同士共有し、介護計画を見直し実践し、より良い支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買物等の外出支援では個々の状況に合ったニーズと要望に対応し、サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に積極的に参加し、近隣住民が施設見学等で気軽に来訪出来るように対応している。また、消防等による防火訓練に参加し、施設の防火訓練にも参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットで月2回の協力医往診時には職員或いは家族が付き添い介助を行っている。また、専門医院受診が必要な場合には家族との連絡調整を行い、紹介状持参にて職員の同行の上、受診支援を行っている。	協力医は、24時間診療体制がある。入居者全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。医師の意見や薬に変更があったときは、往診・通院記録に書き、その都度家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師は常駐していないが、月4回訪問看護に来て頂き、協力医療機関と職員が常に情報交換や相談をし、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に介護支援専門員が医療機関との情報交換、相談を行い協力関係の構築に努めている。また、面会し入居者の治療状況の把握にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から安心して生活して頂けるように入居時だけではなく、日常的に健康管理や治療等についてご家族や本人と話し合う機会を作っている。また、重度化に伴い退去が止むを得ない場合でも家族や医師、本人等と話し合い今後の対応や方向性を確定している。	入居時に重度化に関する確認書を家族に説明し、書面にて同意を得ている。その時期には、医師から今後起こりうる症状等の説明があり、具体的なケアや急変時対応の家族希望を聞いている。終末期には訪問看護師が毎日来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて救命救急及び応急手当等の対応は内部研修で実施し、訓練も行っている。また、事故発生時マニュアルを作成、掲示し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回に渡り、消防署立会いのもと、防災訓練を実施している。また、避難路及び防災マニュアルの整備を行い周知徹底している。	夜間想定を含め、年2回避難訓練を行った。地域住民の参加もある。消防署員による消火器の使い方の助言や「火災発生を知らせる声小さく、隣のユニットの避難が遅れた」等の反省は、次に活かしていただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を保てるように職員全員で心がけ、プライドやプライバシーを傷つける事のないよう対応している。	名前は、入居時に呼び方を聞き「さん」や慣れ親しんだ呼び方で声掛けする。トイレ誘導時は、本人の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、耳元で声掛けする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来るような声掛けを行い、食べたいものややりたい事の希望を取り入れ献立や予定を組んでいる。表情の変化も見逃す事が無い様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして、本人の意思を尊重し職員本位のケアにならないよう心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ、馴染みの美容室に行って頂くよう配慮している。また、要望があれば訪問理容にも対応している。お化粧品も職員が支援し、おしゃれができるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態を把握し、食べやすいように刻み、お粥を取り入れたりし職員と入居者で会話等を楽しみながら食事をしている。食器拭き等一人一人の力を活かしながら出来る部分で準備や片づけに参加して頂いている。	献立は、入居者の好みを取り入れて、職員が作る。入居者が育てた、トマトやアスパラ等が食卓を彩る。行事食では、刺身やお寿司が喜ばれる。市の管理栄養士の助言を得て、みそ汁は夕食のみとした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を毎月作成し、本人の摂取状態に合わせて食事提供を実施し、食事時間も本人の体調や状況によってずらしている。食事や水分量はその都度チェックして記録し、次の食事へと反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕、口腔ケアは見守りのもと出来ない部分の支援を行い一人一人の力に応じたケアをしている。義歯の紛失や、洗浄剤の誤飲を防げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のパターンや能力、習慣を把握し、声掛け見守りのもと排泄表を活用してトイレ誘導を行い失敗しないよう一部支援を行っている。	排泄パターンやもももぞする等のサインを把握し、早めに声掛けする。夜間は安眠を優先するが、個々に合わせてトイレ誘導や居室のポータブルでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録票に排泄状況を記録し、確認を行っている。一人一人の皮膚の状態や排便状況を把握し主治医へ相談のもと連携を取り、排便のコントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や身体状態、精神状態に合わせて入浴を行っている。また、個人の能力に応じて残存能力を活用した支援を行っている。	入浴は、週3回である。畑仕事等で汗をかいた時は、その都度シャワー浴をする。拒否する方への声掛け等での成功事例を職員同士が共有し、気持ち良く入れるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の意向に沿った支援を行いくつろいで頂いている。夜間は不快な音や光等は避け、快適な温度・湿度を保ち本人が休みたい時に安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬日報を作成、運用し薬の目的や用量について周知徹底出来るよう努めている。また、細心の注意を払い処方箋をファイルに保管し職員が把握できるようにしている。誤薬防止のためにも、服用マニュアルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を維持できるよう、食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみを楽しみながら行って頂けるよう声掛けをしている。また、毛糸で編み物や折り紙等で日々楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食、地域交流外出等可能な限り入居者の希望に添って支援、実施している。また、時々家族と一緒に普段は行けない場所へ出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、庭の散歩コースを歩いて気分転換をしている。市内のスーパーに食材やおやつを買いに出かけた時の、フードコートへの立ち寄りが楽しみになっている。春は、鷹来の森運動公園にドライブで出掛け、花見をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、本人・家族と相談して所持して頂き、買い物時自ら購入して頂いている。管理が難しい方でもお会計時にお金を渡し、レジにて自分で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と随時電話ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、不快音や光、温度、湿度には細心の注意を払い調整している。また、ホールの壁には季節のイベントに合わせた飾りつけを施し、庭には季節感が味わえる草木等があり生活に季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	エアコンで温湿度管理がなされ、入居者の暑い、寒いにきめ細かに対応している。食堂兼居間は、歌や体操等での集いの場となる。季節感を表す掲示物は、毎月変える。七夕飾りの短冊には、「孫に会いたい」「長生きしますように」等、入居者の思いがあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等には少人数または一人で過ごせるスペースを確保しており、気兼ねなく思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス、ご家族の写真等愛着のある物を持参して頂き、居心地よく過ごせる居室になるよう努めている。	居室には、備え付けのベッド、ナースコールがある。洗面台は、車椅子の足を置く部分があたらないように配慮されている。毎朝、入居者と職員で清掃をする。何種類もの観葉植物を飾っている方がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の現能力を把握し、手すりの設置、補助具の使用、明るさの調整等を行い、出来る事は実施して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490200110		
法人名	株式会社 長寿会		
事業所名	グループホーム 長寿の郷 広淵 ユニット名 たんぽぽ		
所在地	宮城県石巻市広淵字砂三7番1号		
自己評価作成日	平成29年 8月18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のある共同生活の場で、一人一人が様々なレクリエーションを通して、楽しく生き生きと暮らせる暖かく安らぎのある生活を送れるよう目指しています。『自分らしい』生活というもののが何なのかをよく考え、自立生活の持続を支援しています。
窓から見える庭では四季折々の花が咲いており、広い園庭では散歩を楽しんだり、家庭菜園では野菜の収穫を楽しんだりと目でも手で直接触っても四季を感じられ、身体の向上へと役立てます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸自動車道石巻港インターから北へ5kmほどの国道108号線近くに「グループホーム長寿の郷広淵」がある。ホームは田園に囲まれ、周辺には住宅が点在する。運営推進会議は、地域包括支援センター職員が毎回参加し、2ヵ月毎に行っている。「ホーム行事は、地域との繋がりも視点に入れて」「昔の人はいろいろな知恵がある。それを引き出すと生き生きと教えてくれる」等の会議での意見を運営に活かしている。避難訓練は、地域住民の参加がある。入居者は、家庭菜園や洗濯物畳み、料理の準備・後片付け等、できることを楽しんで、笑顔溢れる日常生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 長寿の郷 広渕)「ユニット名 たんぽぽ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、事業所理念を作成し各ユニット内に掲示・共有をしている。毎日、朝礼時に唱和をしている。	「一人ひとりの思いを大切に笑顔溢れる楽しい暮らしを支援します」を介護理念に掲げ、毎朝唱和している。職員は、入居者との会話や表情、サインから本人の思いや希望の把握に努め、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や保育園等の行事に積極的に参加し、ボランティアの方に来訪して頂きダンスを見せて頂いたりしている。町内会にも加入し、地域の方々との日常的な交流もはかっている。	地域の秋祭りではホーム前を練り歩く子ども神輿を励ましたり、保育園の運動会に出掛けている。ホームの夏祭りやハロウィン行事では、チラシを配布したり、案内をコンビニに掲示して貰い、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が入居者との交流の機会があれば積極的に参加するようにしている。また、行事等を通じて理解や支援をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や実施状況、日常生活等を報告し、会議内にて得られた意見や要望は支援内容や運営内容に取り入れ改善している。毎月「長寿のたより」という施設新聞を入居者家族へ送付し、運営推進会議は2ヶ月に一度、年に6回開催している。	地域包括職員は毎回出席し、年6回開催している。行事、野菜作り、献立等を話し合った。「行事は地域との繋がりも視点に入れて」「ホームの新聞を地域にも回覧したら」や野菜作り等の助言を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは積極的に情報交換や、報告・連絡・相談を行い常に協力できる関係の構築に努めている。	運営推進会議でホームの実情を報告したり、地域包括のオレンジカフェに参加し、情報交換している。行政からの要請で受け入れた入居者の成年後見人が決まるまで、連携して対応する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアを実施しているが、身体拘束マニュアルを基に必要性が生じた場合は家族と相談し、同意を得た上で最低限の拘束に留める努力をしている。身体拘束に関する内部研修も実施している。	日中は玄関の施錠をせず、自由に出入りできる。入居者が家族のもとに帰ろうとして外にでるときは、職員が見守る。腰痛で座り込んでしまったときは本人の気持ちが落ち着くまで寄り添っている。内部研修では、職員が持ち回りで講師となり、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知・徹底の基、内部研修にて資料を配布し虐待についての正しい知識と理解を学ぶ機会を持つようにしている。また、意識統一を図る事で防止するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に、内部研修等で学ぶ機会を持ち、個々に合わせた支援体制を構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、契約書および重要事項説明書の内容について面談にて説明し、家族の疑問点等についても尋ね、理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から寄せられた意見や要望、苦情は真摯に受け止め、運営推進会議等で報告し、入居者への支援の向上に努めている。	利用料を現金払いとして、家族来訪の機会に意見を聞いている。体重の変化や暮らしの様子が分かる写真提供等の家族要望に対応した。行政制度の申請の依頼があり、手続方法を説明し、行政への橋渡しをした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、管理者と計画作成にて話し合い、シフトの組み合わせや運営に関する意見や提案を聞き、反映に努めている。	毎月1回、全体会議が行われ、職員同士がシフトや休暇希望等を自由に話し合っている。薬を入居者毎の箱に分けて管理する提案を反映し、誤配・誤飲を減らし、一人ひとりの服薬状況が分かるように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個人個人の努力や実績、勤務状況等を把握し、出来るだけ現場職員が働きやすいように職場環境の整備に努めている。また、業務に有益な資格はシフトを調整したり、補助したりと資格取得への意欲の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施し、講師を職員が務め出来るだけ職員個人個人が自分で考え互いに学び合える内容になるよう努めている。また、シフト等を調整し、外部研修を受ける機会の確保作りにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政、地域包括支援センター、相互協会などが主催する会議等には積極的に出席しており、情報の共有や相互交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談、入居前の面談において本人や家族の不安な事や要望等を傾聴し、本人が安心し、安全な支援を行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に幾度も面談を行い、本人、家族の困っていることや不安の解消に努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設への来訪または電話にて相談があった際は、現状を確認後にサービスや申請等情報の提供を基に調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として常に尊敬出来る気持ちを持ち、入居者から様々な事を教わりながら一緒に生活し、第2の家庭として安らぎのある笑顔の多い生活、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「長寿のたより」という新聞を毎月請求書と共に送付し、また運営推進会議開催時にも行ったイベントについて個々の状況報告や共有を行っている。また、家族の要望等は随時承っており、要望を取り入れたより良いケア・サービスを行えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族が来訪された際は居室でゆっくりと過ごして頂けるよう心がけている。また、積極的に散歩やドライブ等外出を行い、馴染みのある場所を訪れ関係を途切れさせない様努めている。	週末には、家族や知人の来訪が多い。震災時の避難所だった色麻町農業伝習館に、シャクヤク祭りに合わせて出掛ける事が恒例行事となった。家族と一緒に墓参りや温泉に出掛ける入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の趣味や性格、嗜好等を考慮し、職員も交えて入居者同士が関わり合い支え合う支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時の状況にもよるが、退去後の様子の確認、相談等があれば随時相談に応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話やコミュニケーション等で本人の暮らしに関する希望や意向を把握するよう努めている。また、家族に情報収集を図り、入居者本人本位のケアにも努めている。	会話を多くし、表情やサインから本人の思いや希望の把握に努めている。家族の「食事の準備や洗濯物たたみ等できることをさせて欲しい」の要望や課題への対応は、ユニット会議等で入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他サービス事業者や本人、家族より頂いた情報を基にして、可能な限り馴染みのある暮らし方や環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り、状態観察、現状の把握を行い、生活記録票や介護支援記録票、連絡ノートを活用し職員が周知、共有出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の身体状況が変わる度に職員全員でカンファレンスやアセスメントを行い介護計画の変更を行っている。また、ご家族や入居者の要望を反映して介護計画を作成している。	本人、家族の要望や医師の助言などを基に職員全員で話し合い、3ヵ月毎に計画を見直している。編み物の得意な方には、父の日のプレゼントにマフラーを編んで貰うことを計画し、本人の持てる力を引き出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やスタッフ間での情報や気づきを職員同士共有し、介護計画を見直し実践し、より良い支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買物等の外出支援では個々の状況に合ったニーズと要望に対応し、サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に積極的に参加し、近隣住民が施設見学等で気軽に来訪出来るように対応している。また、消防等による防火訓練に参加し、施設の防火訓練にも参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ユニットで月2回の協力医往診時には職員或いは家族が付き添い介助を行っている。また、専門医院受診が必要な場合には家族との連絡調整を行い、紹介状持参にて職員の同行の上、受診支援を行っている。	協力医は、24時間診療体制がある。入居者全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。医師の意見や薬に変更があったときは、往診・通院記録に書き、その都度家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師は常駐していないが、月4回訪問看護に来て頂き、協力医療機関と職員が常に情報交換や相談をし、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に介護支援専門員が医療機関との情報交換、相談を行い協力関係の構築に努めている。また、面会し入居者の治療状況の把握にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から安心して生活して頂けるように入居時だけではなく、日常的に健康管理や治療等についてご家族や本人と話し合う機会を作っている。また、重度化に伴い退去が止むを得ない場合でも家族や医師、本人等と話し合い今後の対応や方向性を確定している。	入居時に重度化に関する確認書を家族に説明し、書面にて同意を得ている。その時期には、医師から今後起こりうる症状等の説明があり、具体的なケアや急変時対応の家族希望を聞いている。終末期には訪問看護師が毎日来る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて救命救急及び応急手当等の対応は内部研修で実施し、訓練も行っている。また、事故発生時マニュアルを作成、掲示し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回に渡り、消防署立会いのもと、防災訓練を実施している。また、避難路及び防災マニュアルの整備を行い周知徹底している。	夜間想定を含め、年2回避難訓練を行った。地域住民の参加もある。消防署員による消火器の使い方の助言や「火災発生を知らせる声小さく、隣のユニットの避難が遅れた」等の反省は、次に活かしていただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を保てるように職員全員で心がけ、プライドやプライバシーを傷つける事のないよう対応している。	名前は、入居時に呼び方を聞き「さん」や慣れ親しんだ呼び方で声掛けする。トイレ誘導時は、本人の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、耳元で声掛けする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来るような声掛けを行い、食べたいものややりたい事の希望を取り入れ献立や予定を組んでいる。表情の変化も見逃す事が無い様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして、本人の意思を尊重し職員本位のケアにならないよう心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ、馴染みの美容室に行って頂くよう配慮している。また、要望があれば訪問理容にも対応している。お化粧品も職員が支援し、おしゃれができるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態を把握し、食べやすいように刻み、お粥を取り入れたりし職員と入居者で会話等を楽しみながら食事をしている。食器拭き等一人一人の力を活かしながら出来る部分で準備や片づけに参加して頂いている。	献立は、入居者の好みを取り入れて、職員が作る。入居者が育てた、トマトやアスパラ等が食卓を彩る。行事食では、刺身やお寿司が喜ばれる。市の管理栄養士の助言を得て、みそ汁は夕食のみとした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を毎月作成し、本人の摂取状態に合わせて食事提供を実施し、食事時間も本人の体調や状況によってずらしている。食事や水分量はその都度チェックして記録し、次の食事へと反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕、口腔ケアは見守りのもと出来ない部分の支援を行い一人一人の力に応じたケアをしている。義歯の紛失や、洗浄剤の誤飲を防げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人のパターンや能力、習慣を把握し、声掛け見守りのもと排泄表を活用してトイレ誘導を行い失敗しないよう一部支援を行っている。	排泄パターンやもももぞする等のサインを把握し、早めに声掛けする。夜間は安眠を優先するが、個々に合わせてトイレ誘導や居室のポータブルでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録票に排泄状況を記録し、確認を行っている。一人一人の皮膚の状態や排便状況を把握し主治医へ相談のもと連携を取り、排便のコントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や身体状態、精神状態に合わせて入浴を行っている。また、個人の能力に応じて残存能力を活用した支援を行っている。	入浴は、週3回である。畑仕事等で汗をかいた時は、その都度シャワー浴をする。拒否する方への声掛け等での成功事例を職員同士が共有し、気持ち良く入れるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の意向に沿った支援を行いくつろいで頂いている。夜間は不快な音や光等は避け、快適な温度・湿度を保ち本人が休みたい時に安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬日報を作成、運用し薬の目的や用量について周知徹底出来るよう努めている。また、細心の注意を払い処方箋をファイルに保管し職員が把握できるようにしている。誤薬防止のためにも、服用マニュアルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を維持できるよう、食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみを楽しみながら行って頂けるよう声掛けをしている。また、毛糸で編み物や折り紙等で日々楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食、地域交流外出等可能な限り入居者の希望に添って支援、実施している。また、時々家族と一緒に普段は行けない場所へ出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、庭の散歩コースを歩いて気分転換をしている。市内のスーパーに食材やおやつを買いに出かけた時の、フードコートへの立ち寄りが楽しみになっている。春は、鷹来の森運動公園にドライブで出掛け、花見をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、本人・家族と相談して所持して頂き、買い物時自ら購入して頂いている。管理が難しい方でもお会計時にお金を渡し、レジにて自分で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と随時電話ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、不快音や光、温度、湿度には細心の注意を払い調整している。また、ホールの壁には季節のイベントに合わせた飾りつけを施し、庭には季節感が味わえる草木等があり生活に季節感を取り入れ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	エアコンで温湿度管理がなされ、入居者の暑い、寒いにきめ細かに対応している。食堂兼居間は、歌や体操等での集いの場となる。季節感を表す掲示物は、毎月変える。七夕飾りの短冊には、「孫に会いたい」「長生きしますように」等、入居者の思いがあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等には少人数または一人で過ごせるスペースを確保しており、気兼ねなく思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス、ご家族の写真等愛着のある物を持参して頂き、居心地よく過ごせる居室になるよう努めている。	居室には、備え付けのベッド、ナースコールがある。洗面台は、車椅子の足を置く部分があたらないように配慮されている。毎朝、入居者と職員で清掃をする。何種類もの観葉植物を飾っている方がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の現能力を把握し、手すりの設置、補助具の使用、明るさの調整等を行い、出来る事は実施して頂いている。		